

住みよい下大野

第51号

令和6（2024）年8月15日発行
下大野市民センター内 「住みよい下大野をつくる会」
311-1131 水戸市下大野町 6094-1 Tel 029-269-1288

- p.1 令和6年度年間行事予定と予算
p.2 通常総会報告／津波から命を守る／ソフトバレーボール（地区・ブロック）／
常澄駅前の整備／防災・避難訓練
p.3 大洗鹿島線の環境を守る／塩崎町お田植え祭／常澄中の新制服／編集後記／編集部員
p.4 下大野風土記（下大野中学校）

令和6年度年間行事予定

5月15日	住みよい下大野をつくる会総会
6月9日	地区ソフトバレーボール大会
6月中旬	花いっぱい運動花苗配布・植え付け
6月30日	常澄ブロックソフトバレーボール大会
7月28日	防災・避難訓練
8月15日	地区広報紙第51号発行
9月19日	第22回三世代交流の集い（お月見会）
10月13日	第2回下大野地区スポーツフェス
10月23日	第3回下大野オープンゴルフ大会
11月4日	第4回下大野地区グラウンドゴルフ大会
11月24日	第23回下大野サッポコまつり
2月下旬	花いっぱい運動花苗配布・植え付け
3月中旬	地区広報紙第52号発行

令和6年度予算

収入（単位 円）	
収入合計	2,560,000
会費	301,000
補助金	872,325
委託料	402,550
繰越金	947,066
雑収入	37,059
支出（単位 円）	
支出合計	2,560,000
会議費	50,000
負担金	26,625
事務費	100,000
事業費	990,000
委託業務費	402,550
運動会費	350,000
旅費	60,000
育成助成費	90,000
予備費	490,825

通常総会報告

令和6年度の通常総会が5月15日(水)午後7時より開かれました。

昨年度は前年に再開した「下大野サ皆コーまつり」のほか、「お月見会」も復活し、市民運動会に代わる「スポーツフェス」も開催されるなど、コロナ禍以前の姿に戻りつつあります。

しかし、地域や年代のつながりを復活させるには、強いエネルギーが必要です。顔を合わせて語り合えるありがたさを感じながら、活気ある下大野づくりに努めてまいります。



役員の一部改選

- * 水戸市消防団第19分団分団長
大谷広城 → 田口博文
- * 女性防火クラブ会長
佐藤和子 → 庄司正子
お疲れ様でした。(G)

津波から命を守る

国道245号的那珂川に架かる湊大橋に、津波から命を守る目的で緊急避難階段が設けられています。

これは、緊急時にいち早く避難できる施設の設置要望が地域から多数寄せられ、小泉地区の唯一の高台となる湊大橋への避難経路として設置されたものです。一度自分の目で確かめて、いざという時の備えにしてください。



津波への備えとして意識していただきたい点として、

- ・短時間で避難を可能にする
- ・地域性(地形・道路状況)などを把握する

・避難計画(避難行動、避難場所)を前もって策定する

- ・地域の共助を意識し、地域で防災を検討する場を設ける

那珂川付近には、マリンスポーツを楽しむ施設もあります。地域に周知し地域全体で防災の意識を高めたいですね。(荻谷)

ソフトバレーボール

【下大野地区大会】

下大野地区市民が球技を通じて親睦と交流を深めるとともに、スポーツ活動の振興とコミュニティづくりを目的に開催されています。

6月9日(日)9時10分から常澄健康管理トレーニングセンターにおいて地区大会が開催されました。参加チームは、ピカイチ(1区)、小泉A・B、川又、MIX、平戸、塩崎A・Bで、3つのコートを使って試合をしました。



【常澄ブロック親善球技大会】

6月30日(日)9時から。常澄健康管理トレーニングセンターにおいてブロック大会が開催されました。

常澄ブロックソフトバレーボール大会後、体育委員の方々の企画により、江口会長にも参加して頂き、集落センターで久しぶりに打ち上げ&反省会を行う事ができました。

色んな話題で盛り上がりとても有意義な時間を過ごすことができました。大会があるからこそ、練習に張り合いがでるし、色んな人と

の再会ができます。大会開催の為に準備して下さった皆さんありがとうございました。また来年会いましょう。(G)

常澄駅前の整備

7月28日(日)午前8時30分、朝からかなり暑かったのですが、モチノキ周辺の雑草を中心に除草作業をしました。イルミネーションにツル草がからまり大変でしたが、市民センター長、役員の皆さんや広報部員で気合を入れて頑張りました。今年の冬も暖かく点灯できるように、整備しています。(I)



防災・避難訓練

7月28日(日)午前9時30分より、下大野地区避難訓練(河川ハザード対応)が行われました。

玄関前に法被姿の女性防火クラブの皆さんが笑顔で迎え、受付をしてくれました。集会室では役員の方が簡易トイレの設営・展示を行いました。



女性防火クラブ会長の庄司さんは、「避難訓練のチラシを回覧しましたが、参加者が役員を含め32人と少なく感じました。最近、想定外な自然災害を良く耳にします。情報や知識を広範囲の方と共有し地域のお役に立てるよう活動したいですね」と話していました。(G)

大洗鹿島線の環境を守る

今年も、雑草の繁茂による病害虫発生防止を目的に、大洗鹿島線高架下除草作業が、鹿島臨海鉄道（株）から「大洗鹿島線の環境を守る会（下大野地区内町内会）」が委託を受けて実施されました。

毎年7月中旬から8月上旬にかけての酷暑の中、常澄地区区間4.7kmを6町内会が分担し、約140人が参加して草刈機を使用しての除草や、手作業でフェンスに絡んだ雑草を取り除いています。

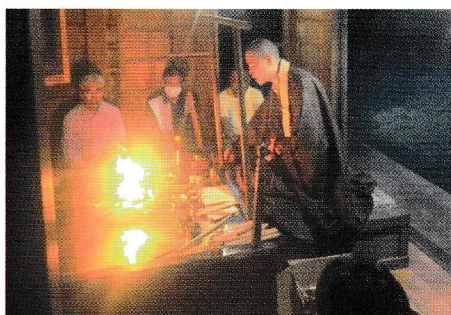


早朝にもかかわらず今年も酷暑に見舞われ、作業は厳しいものになりましたが、作業後の皆さんの顔には地域の環境を守っている充実感が伺えました、(S)

塩崎町お田植え祭

塩崎町の朝日山観音寺お田植え祭が7月17日（水）19時から実施されました。

長福寺住職による読経が厳かななかで始まり、日中の暑さが残る堂内の護摩行に、塩崎町内の人達も真剣に聞き入っていました。



この観音寺は開基帳によると、文安元（1444）年、今から580年前の開基由来とされていますが、現在は廃寺になっています。

塩崎朝日山観音寺のお堂の中には本尊聖観世音・十一面観音・地藏菩薩の各像が安置されています。



観音寺境内には、建立年不詳の「百万遍供養塔」、嘉永7（1854）年「子安観音像」、万延元（1860）年「庚申塚」、正徳4（1714）年「地藏菩薩立像」などがあり、歴史的価値を改めて感じました。

このような祭事は、地域のためにも、これからも残しておきたいものです。（吉川康範）

常澄中の新制服

常澄中学校では、来春から制服が新しいデザインに変わります。60年以上続いた学生服とセーラー服からブレザーへ統一されます。常澄中学校では、男性・女性という枠組みにとらわれず、多様性に対応し、自分らしさを表現できるようにすることで「生徒全員が幸せな学校」にしようと声があがったことが制服モデルチェンジのきっかけとなりました。

新制服の検討が始まったのは、昨年春ごろからで、昭和33（1958）年の開校以来同じデザインでしたが、性の多様性を踏まえて制服に関するアンケートを実施しました。すると刷新を求める声が大半を占め、生徒会やクラス代表で構成する委員会が設置され、制服変更に向け検討を始めました。

検討委員会は生徒たちから寄せられた意見を教員と擦り合わせながら1年という時間をかけ、先輩から後輩へ、互いを思いやる気持ちの表れ大切なことに気づかされたそうです。

新制服の紹介と流れ

制服モデルプロジェクトでは、全校生徒が関わっていくために、2回のアンケートを実施して意見を集め、様々なデザインを展示し、生徒の意見や試着を通して採用する生地を決定しました。

ジェンダーレスを意識したサンプルが校内（昇降口）に展示され、生徒の目に触れるよう工夫されました。

濃紺のブレザーが全員共通で、チェック柄のズボンかスカート、および赤みがかった茶色いネクタイとズボンが選べるようになり、最大4通りの着こなしが可能です。通気性の高い生地を採用しました。



ワッペンとボタンは生徒が考案し、約40の候補から投票で決定しました。ワッペンは常澄をイメージした稲と水、大串貝塚を題材にしています。ボタンは、校章をあしらったボタンに反射材を付けました。ネクタイとリボンに取り入れられた青、白、ピンク計3色のしま模様は、水と空、桜に加え、ダイダラ坊伝説を反映しています。

編集後記

なんとか令和6年度も編集がスタートしました。「住みよい下大野をつくる会」は、住民の皆様のための、住民参加によるネットワークです。参加しましょう。（Y）

編集部員

市毛精彰・吉川正弘・後関圭子・田口博文・荻谷信之・栗原一則・鴨志田文雄・吉川康範・吉川勲
江口孝史（地区会長）

下大野風土記（下大野中学校）

新憲法下の学制改革により、昭和22（1947）年4月20日、新制中学校が発足しました。当時は、東茨城郡下大野村であり、村長は平戸清二氏で戦後自治制1期目の時でした。

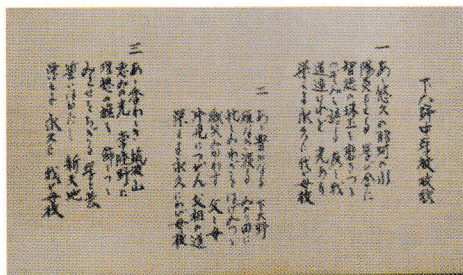
初代下大野中学校長は、前年度下大野国民学校長として赴任していた田口行雄先生で、昭和22年4月20日から23年3月31日までの短い在任でした。2代校長が、関根厚先生で、昭和23年3月31日から昭和33年3月31日まで、草創期から10年間の長きにわたり在任されました。

さて、公布を受けた村は開校準備に取り掛かりましたが、とりあえず前年度までの高等科教室と、下大野国民学校の附属施設としてあった「郷土館（ごうどかん）」（のちに下大野公民館）を、中学校校舎に充てました。二階建ての郷土館を仕切り、教室と職員室を分けただけの応急校舎で開校でした。



生徒は、新制度移行に伴う経過措置として、旧制のまま高等科2年で卒業する人、あるいは、旧制の中学校や実業学校に進学する人がありました。新制の中学校3年生に編入した生徒は、（昭和7年4月～8年3月生まれ）の高等科2年修了者で24名ほどでした。2年生は高等科1年修了者で、義務制ではありませんでしたが、恩師の勧めでほぼ全員が新制2年生に進みました。1年生からは義務制で、下大野小学校（前下大野国民学校）6年生から下大野中学校最初の1年生になりました。

仮校舎は、旧教室の間借りや郷土館で何とかりましたが、本校舎建設にはその敷地選定で困難がありました。そうした中、村のほぼ中央部に位置する通称「新田原」（しんでんばら）と称する山林草地に衆目が集まりました。個人名義地であったことから、再々協議、幸いにして大半の所有者から寄贈という土地の無償提供が得られ、敷地課題は解決に至りました。



こうした経緯で、昭和23年11月5日校舎建設起工に至りました。工事は先ず、湿地であったことから、土盛り作業に着手しました。このときの作業は、村民の勤労奉仕、中学生の半日作業、とにかく人海戦術で進められました。さらに続いた基礎工事も全村民の労力奉仕で完遂したと、平戸村長の回顧録にあります。校舎建築にあたっては、極度の資材不足の時代、勝田にあった軍需工場の払い下げを受け、解体の上この資材で校舎に改築、新校舎の完成をみたのです。そして、昭和25年春竣工し、仮校舎から引き移りました。

その後も充実が図られ、運動場の拡張、校長住宅の整備、学校給食室の新設、実習用豚舎、農具堆肥舎の建築が続きました。

昭和25年度に養豚・養鶏舎を建設、繁殖豚や鶏・うさぎの飼育が始まりました。特別教室には、工作道具が並びテーブルやいすには、「生産部」という備品シールが貼ってありました。さらには、ガラス温室あり、3反歩ほどの実習地で田畑の作業もありました。昭和33年、3年生だった私は、3馬力くらい

のディーゼル発動機で、高等小学校時代から耕作してきた田んぼに、毎日のように水汲みをしました。

肥桶を二人で担ぎ、下肥を学校の畑に散布し肥料にしました。これらの作業に使う用具は何でもあり、脱穀、もみすり機も稲作関連の一揃いがありました。オート三輪トラックまであり、昭和29年以前の3年男子生徒が運転実習もしました。



これは、「農村における職業家庭科の在り方」を研究課題としたもので、当時の農村生活に直結する実業教育の学習課程でした。

こうした実践教育の取り組みによって、昭和28・29年度には文部省のモデル指定校となったのです。

印象深いのは豚の世話でした。日曜日、夏休みも、冬休みも当番が登校し餌を与えました。とくに豚のお産は概ね夜間だったので、先生と宿直室に泊り、へその緒を切る前に、結び糸を赤チンキで消毒、カミソリで切ることもやりました。子豚は10頭ほどでしたが、生まれた後も親豚に潰されないようにと、しばらくの間勉強より豚の方が頭から離れませんでした。

昭和33年9月30日、下大野、稻荷、大場中学校が統合、常澄中学校が発足しました。校名は常澄中学校下大野校舎となり、最後の校長は、着任して間もない皆藤武夫先生でした。

第1回卒業生は、昭和7年生まれの24名。最後の卒業生は、昭和33年3月、昭和17年生まれの70名でした。この間10年、下大野中学校から812名の卒業生が巣立ちました。（飛田邦夫）